

## 開発途上国の留学生在が佐渡の里山から学ぶ

～15か国18名の大学院生が3日間佐渡を視察し、母国へ活かす～

日本の政府開発援助（ODA）実施機関として、開発途上国への国際協力を行っている独立行政法人国際協力機構（理事長：田中明彦、本部所在地：東京都千代田区、以下：JICA）は、開発途上国から来日し大学院に在籍している長期研修員（以下：JICA留学生）を対象に、「トキと共生する佐渡の里山」を育む佐渡市の試みや課題を学ぶための3日間の地域理解プログラムを実施します。世界共通の課題であるSDGsに挑戦する佐渡のグローバルな取組みと、それを学ぶ世界各国からの留学生の様子や感想をご覧ください。ぜひ取材をご検討ください。



昨年度の様子

【取材可能な研修日程】 ※当日は研修監理員が同行し、通訳（日本語-英語）を行います。

	時間	内容	場所
6/7(金)	15:00～17:00	【講義】佐渡の歴史と文化	両津地区公民館
	18:00～20:00	夕食&交流会	トキ交流会館
6/8(土)	9:00～10:00	【視察】佐渡金山見学	佐渡金山
	11:00～12:00	昼食	尾畑酒造 学校蔵
	12:00～13:00	【視察】尾畑酒造 学校蔵	同上
	14:00～14:30	【視察】北沢浮遊選鉱場跡	北沢浮遊選鉱場跡
	15:30～16:30	【視察】トキの森公園	トキの森公園
6/9(日)	9:00～9:45	【視察】生き物調査・田んぼアート	斎藤農園（認証米栽培農家）
	10:00～11:00	【講義】朱鷺と暮らす郷づくり 講師：斎藤農園代表	トキ交流会館

参加者する留学生は、ケニア・ウガンダ・ガーナ・ジンバブエ・リビア・メキシコ・フィリピンといった世界各地から来日し、東京近郊および新潟県内の大学院（博士/修士課程）で学ぶ18名で、将来は親日派・知日派トップリーダーとなることが期待されている方々です。人々との交流を含めSDGs未来都市を推進する佐渡をまるごと実体験することにより、本視察の目的である、日本の地域固有の発展の歴史と現在について洞察を深め、帰国後の母国での国造りの手掛りを得ることが期待されています。

---

JICAは、研修員受け入れ事業の一つとして全国で多くのJICA留学生を受け入れており、新潟県を含む1都5県を管轄するJICA東京では、33の大学にて計420名を受け入れています。

また、JICA留学生向けに、日本を理解するためのプログラムとして、「地域理解プログラム」を提供しています。日本の各地で培われてきた地域特有の開発事例を題材とし、地域に根差したより具体的な開発事例を学ぶことで、日本の開発経験について更なる理解を深め、母国の開発に活かすことを目的としております。

本プログラムでは、佐渡独自の歴史である、金銀鉱山発展と島人口の増加、棚田の開発、トキ保護の取組含めて形成されている「トキと共生する佐渡の里山」を育む佐渡市の試みや課題を学ぶことを目的としています。特に、日本産トキの絶滅をきっかけとする生物多様性保全型農業の推進を通じた環境保全と農業の両立への取り組み、ならびに島独自の文化を活かした地域創生などを中心に、近年の佐渡島の統合的な地域開発の歴史と現状について理解を深め、日本における農業を軸とする地域開発の具体的事例を知る機会とすることが期待されています。

市民による生き物調査や田んぼアートなど、留学生にとって初めて目にするばかりです。郷土愛あふれる齋藤農園代表のお話はどのように伝わっていくのでしょうか。ぜひご覧ください。

取材のお申込みや本件に関するお問い合わせ先
JICA東京 長期研修課 鈴木・阿部 TEL 080-7138-7520 (鈴木業務携帯)
E-mail: <a href="mailto:Suzuki.Ritsuko@jica.go.jp">Suzuki.Ritsuko@jica.go.jp</a> <a href="mailto:Abe.Yoko@jica.go.jp">Abe.Yoko@jica.go.jp</a>